

東京 陵 水

賀 正
令和5年 元旦
陵水会東京支部役員一同

年頭所感

能島 伸 夫
陵水会東京支部長

新年明けましておめでとうございませう。本年が会員の皆様にとつて幸多く、また素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。



祝 彦根高商創立100周年

昨年は2月のロシアによるウクライナ侵攻、7月の新型コロナウイルス感染者が東京で1日4万人を超える状況や10月の急激な円安の動き、物価の高騰等戦後数十年ぶりに起こる事態が発生しました。世界的安全保障体制の揺らぎ、感染症の不安の高まり等、正にVUCAの時代、社会経済の不確実性が高まった一年でした。そんな環境下、我々陵水会東

目 次	
1面	年頭所感(能島支部長)
2面	Next Ryosuiの進展について
3～6面	総会・宮西准教授講演
6～8面	パネルディスカッション
9～10面	支部報告
11～13面	こんにちは

14面	国宝「菅浦文書」
15面	彦根・思いで・街歩き
16～17面	シヨート・メッセーじ
17～21面	寄稿・同好会だより
22～23面	東京陵水文芸
24～25面	年会費納入者一覧
26面	広告・奥付

ンス学部への支援であります。

会員の高齢化が進み、会社現役年齢の長期化、若手会員の陵水会不認知、新型コロナ蔓延の影響もあって、会員相互の出会い、コミュニケーションの場が減少してまいりました。会員の年会費徴求もままならず、支部財政も極めて厳しい状況でした。これらの状況を打開すべく大きな一手が以下の三点です。

(1) Next Ryosuiの立ち上げとその進展であります。そもそも東京支部が始まったこのNext Ryosuiを本部の若手交流委員会組織に帰属させ、会員の多くの賛同者を得て、公式LINE、ホームページを立ち上げ、今では大学の学生組織として作られたNext Ryosuiサークル(人員数75名)と頻りに交流が出来るようになりました。永年の課題であったOB、OGと在学生との交流の仕組み、チャンネルが出来上がりました。今後の発展が期待されます。(LINE登録者530名以上・2022年10月末)

(2) 今後の活動について
現在のペースで東京支部幹部・役員と大学Next Ryosuiサークル幹部との間で打合せ会議を実施中です。
(2) また新しい形によるリーダーシップ論講義への講師参加の継続であります。これまで伝統のあったリーダーシップ論講義ですが、受講学生が一時は30人程度に減少していたのを一昨年から小野教授指導の下、新しい形「人生において一皮むけた経験を人材開発論に基づきケーススタディ方式」に変えて実施するもので、昨年の受講者は181人にまで増加致しました。講師はすべて東京支部の現役OB、OGの7名でした。

(3) そして彦根高商100周年記念募金活動、特に法人募金の獲得です。東京支部役員による企業訪問の結果、法人募金で目標の20百万円に対し13社/23百万円を昨年9月末で達成し、それ以降も企業訪問を継続実施中でありませう。

1 これまでの活動状況
支部活動に於いての大きな目標は陵水会員相互間の親睦と滋賀大学経済学部・データサイエ

現在月1度のペースで東京支部幹部・役員と大学Next Ryosuiサークル幹部との間で打合せ会議を実施中です。
(2) また新しい形によるリーダーシップ論講義への講師参加の継続であります。これまで伝統のあったリーダーシップ論講義ですが、受講学生が一時は30人程度に減少していたのを一昨年から小野教授指導の下、新しい形「人生において一皮むけた経験を人材開発論に基づきケーススタディ方式」に変えて実施するもので、昨年の受講者は181人にまで増加致しました。講師はすべて東京支部の現役OB、OGの7名でした。

論講座（これまでのリーダーシップ論からの変更講義となる）への講師協力3、百周年記念事業完遂・成功のための更なる活動4、各種同好会（ゴルフ会、囲碁会、散歩会、詩吟の会）への参加を実施し、東京支部活動の更なる活性化を図っていきたく考えております。

皆様、7月1日（土）の東京支部総会でお会いしましょう。就任以来、座右の銘である「着眼大局着手小局」、「early small success」を念頭に行動を行ってきました。彦根高商創立100周年の今年、新しい陵水会の姿、従来以上に存在感がある陵水会・東京支部、そして新しい未来創造の大学支援を念頭に活動していく所存です。

引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

彦根高商創立百周年記念「事業計画」のご案内



陵水会本部ホームページ
百周年記念事業サイトはこちら

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/ryosui/ryousuikai100zigyou/>

Next Ryosui の進展について

服部 進（副幹事長・大37回）

OB会の存在意義って、本来OBの方々同士の交流のハブとなることではないかなと思っております。ただ、社会に出ると、実際、面倒だったりして、なかなか参加することがないのが現状です。

Next Ryosui は、特にOB会を敬遠しがちな若手メンバーを中心にネットワークできればという目的で活動をしています。

活動開始から約半年立ちましたが、まだまだ浸透には時間がかかるかなと考えております。誰にも押し付けず、誰にも面倒さを感じさせず、楽しく交流できるには、どのようにしたら良いのか、手探りです。お気づきのことがあれば、アドバイスをいただければ幸いです。

現役生のサークルも立ち上がり、協力し合いながら活動を始めています。現役生による公式ホームページ、公式LINEの運営、発信や、先輩のインタビュアーの動画チャンネルの開設など、少しずつ形になってきています。

先日の滋賀大祭では、OB現

役生と共同で「和のステージ、体験ブース」を運営し、たくさんの方々に楽しんでいただけました。これは、自分がプロデュースする和楽器ユニット、OBでもある鉤逢賀さん（京都・剣舞師範）が参加し、Next Ryosui サークルが運営、さらに、現役OB邦楽サークルメンバーと協力したものです。このイベントは、滋賀大学OBとしての本流ではないかと思いが、金融、マーケティング、商社的なことなど、今後、さまざまな活動をしていく上でのスタートになったかと思えます。

参加してください、というお願いは致しません。まずは、そんな活動が始まりつつあるというところを、ご関心いただければ幸いです。そして、ご興味いただいたら、服部までご連絡ください (susumu@heart-tree.com)。また、現役生が運営している公式ホームページ (<https://nextryosui.jp>)、公式LINE、公式Twitterも登録、よろしくお願いたします。

公式LINE: <https://line.me/R/ti/p/@259lrzcl>
Twitter: <https://mobile.twitter.com/nextryosui>
NextRyosui チャンネル: <https://www.youtube.com/channel/UCuPCeej8hBx29Lagobnb0sA>



陵水会本部ホームページ
Next Ryosui サイトはこちら

<https://nextryosui.jp/>

Best Solution Co., Ltd.
ベスト・ソリューション株式会社 03-5652-0172



生保・損保のご相談/M&A 案件は弊社にお任せください

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町 12-9 滋賀ビル 801
ベスト・ソリューション株式会社

代表取締役 上林好一（かんばやし よしかず） 大26回卒

TEL:03-5652-0172 FAX:03-5652-0145
Mail: y.kanbayashi@b-solution.jp
HP <https://www.b-solution.jp/>

法人/個人 何れの案件も承っております

令和四年度 東京支部総会

宮西賢次准教授 講演

「滋賀大のDNA」要旨



令和四年七月二日(土)午後4時半から上野精養軒にて東京支部総会が総勢156名(会場114名・オンライン42名)の参加者を迎えて開催。今年の総会は大33回卒業生が担当の当番幹事で前後の卒回メンバーと連携しながら企画・運営に当たった。支部役員と当番幹事の尽力により3年ぶりの懇親会も実現。滋賀大学から竹村彰通新学長、陵水会から山田督理事長を来賓に迎えて中村幹事長の開会宣言、能島支部長の挨拶が続いた。オンライン運営は昨年同様、徳川喜則さん(大50)が全面的に担当。総会に新しい風を!との幹事団の創意により「滋賀大学のDNA」をテーマに宮西准教授講演とパネルディスカッションを軸にフレッシュなひと時を演出した。竹村新学長の「未来創生大学」への抱負と併せ大改の産みの苦しみを乗り越える感動を共有し、竹森二郎前支部長(大19)の乾杯で懇親会がスタート、田川行雄様(大9)の締め挨拶、彦根高商校歌の合唱で令和4年度総会は幕を閉じた。

皆様こんにちは。本日は3年ぶりの対面の支部総会開催、誠におめでとうございます。

今日のテーマは「滋賀大学のDNA」ということで全国初のデータサイエンス学部ができたのはなぜか?少しお時間を頂

1. プロフィール

私は、大阪大学大学院(経済学研究科博士課程)を出まして滋賀大学経済学部で奉職し、助手、講師、助教授を経て、本格的に世界最高レベルの研究をしたいと思いつルブライト・プログラムで米国ノースウエスタン大学ケロッグ・マネジメントスクールの博士課程に入学しました。そこで非常に良い環境で研究をさせて頂き、2000年に戻ってきました。

した。

2. 目標

個人的に最初から目標にしてきたことがあります。それは「学生のマーケットバリューを限界まで高める」ということで

1.1 大学改革との関わり
ちようど国立大学が独立行政法人になり、大学も競争で資金が配分されるということ、大改が必至という切羽詰まった状況にアメリカから舞い降りた状況に海外経験を踏まえて、大学の改革をやつてはどうかということになりました。

帰国後に私が主に携わつてきたのは、まずは「彦根キャンパス国際化戦略」で、海外大学との交流協定を次々と結んできました。歴代の学長先生と二人三脚でエコノミーの飛行機に乗つてメキシコまでドアツードアで27時間かけて行くとか、涙ぐましい努力もあつて次々重要な大学を開拓しました。

その後は「カリキュラム改革」と「大学改革」です。改革が始まった最初の2年間で次の6年間のプランを策定するというサイクルを繰り返すのですが、改革プランを策定する時期になると何年かそれに携わるとい形で過ごしてきました。

一方ではゼミでの専門教育に特に力を入れて頑張つて参りました。

力」の4つのコンセプトを定めました。最後の「変革能力」は私が特にこだわつて入れて頂きました。

「学生のマーケットバリューを限界まで高める」ということで最も重視して教育や様々なことを行う訳ですが、日本の大学と欧米の大学と何が一番違うかというところ、日本の大学の教育プログラムが良くないということもありまして、マーケットバリューを高めるといふ発想が日本の大学にはほとんどないことでした。

私はそこからスタートして全く逆の発想で一流大学を上回る教育ができないかと、ちよつと大それたことを考えてきました。

3. 改革のスタート
大学改革に直面した時、根本的にどんな人材育成をしたらいのかということ徹底して議論し、滋賀大学経済学部の理念として『グローバル・スペシャリスト育成』の理念にたどり着きました。

この理念を構成する要素として「環境・経済の地球規模のシステムの理解」「グローバルな問題意識」「世界で通用する専門性と問題解決能力」「変革能力」の4つのコンセプトを定め

4. 二つのハードル
この20年間、大学改革を進めていく中で大きなハードルが二つありました。

一つは、「学科重視の専門教育」と「学際的・分野横断的教育」のスタンスの違いをどう乗り越えるかということでした。

学科重視の専門教育はもともと文部科学省（以下、文科省）の方針です。経済学部は6学科あったのですが、受験時に学科を選んで、その学科で4年間学んでいくべきだという意見が強かったのです。

私がアメリカで学んだビジネススクールの教育は全然違います。実践への応用を重視した時、特定の専門分野だけを掘り下げたのではなく、ある程度幅広くやっていく学際的・分野横断的教育が重視されています。今まさにデータサイエンス学部と経済学部、教育学部が連動して多様な分野を学ぶという体制は、大学全体として進んできた方向性になっていますが、学科重視の専門教育は結構根強いものがあります。

文科省の方針は、最近になって180度変わったと私は思っています。

二つ目は「経済・経営の学部分離」と「ビジネススクール型組織」の違いをどう乗り越えるかということでした。

経済・経営学部分離は、経済学部が大きくなりすぎたので経営を分離して二つの学部にするという改革案です。外からも内からもよく出てきましたが20年

間出てくる度に潰してきました。ビジネススクールではエコノミクス、マーケティング、ファイナンス、アカウンティング：と全部あります。日本に帰ってきた時に、他の国立大学経済学部と滋賀大が違うところは何かというと、滋賀大には経済に関して全分野がある点だと気づきました。そこが実践的なトレーニングを行うときに一番強みを発揮できるところだと。ここから、絶対分離しない方がいいとしつつこ抵抗しながら今日に至っています。

5. 大学改革2013

少し飛びますが、データサイエンス学部が創設されるその前の2年間つまり2013年から活動ですが、副学長の北村先生という方がおられ、若い頃からずっと改革、改革と言っては、私なんかを使ってくさいました。その先生と2人で西日本の国立大学で新たに学部を創った所を全部訪問し、文科省とどのような交渉を経て認可されたのかを2年間調査しました。

5.1. ローカル人材育成学部構想

調査した中で新学部が成功している所は正直言ってみてもありませんでした。もう定員割れするようない感じで、しかもロー

カル人材育成系の学部ばかりでした。滋賀大は文科省では地方大学に分類されていますので、まずは「ローカル人材育成学部」構想を検討しました。

5.2. 学部版ビジネススクール構想

次に検討したのが宮西ゼミの実績を踏まえて学部全体でビジネススクールを本格的に立ち上げるという「学部版ビジネススクール」構想でした。

私はこの案を担当して2年間検討しましたが、例えば高額な授業料が必要ではないか、各分野で欧米のトップスクールの教育や研究に触れている研究者を日本で確保できるのか、という問題があり断念しました。

5.3. 統計学部→DS学部構想

最後に出てきたのが統計学部案でした。昔から経済学部は統計や計量経済を応用した研究をやってきましたし、アメリカの大学では統計学部や数学部があり、全学部の学生がそこへ統計や数学を学びに行くという体制になっていることから、統計学部を検討しはじめました。ちょうどその時、日本学術会議の報告書でデータサイエンスの育成が急務だと提言され、本当に2日か3日で、これで

こうということに急展開しました。2年間助走して最後の2日で飛びついたようなそんな出会いがありました。普通なら2年ぐらい学内の調整や文科省との折衝をやるのですが、学内は1か月半で一応全員の了承が取れました。

文科省に話を持っていったのが2ヶ月後の秋で、一発目で非常に良いと。文科省にケチつけられなかった最初の経験でした。その後1ヶ月半位して当時の安倍首相が日本戦略会議の中で、データサイエンス教育に力を入れると言い出し、滋賀大の名前に言及されました。私はその瞬間にこれは上手くいく、おそらく社会のニーズを捉えており、マーケットバリューが出ることを確信しました。

6. 大学改革2015

2015年、データサイエンス学部構想が学内でまとまり、文科省の了承をとることも大体いけそうだとした年です。

6.1. データサイエンス学部新設

当時は佐和学長でしたが、京都の陵水会支部総会で大学改革のテーマで講演をさせて頂きました。当時の講演資料を見返すと、滋賀大がデータサイエンス学部を新設し、ビッグデータの

解析、文理融合への布石、企業・海外および国内研究機関との提携を目指すという、現在の方向性が既に明確に盛り込まれていたことが分かります。

6.2. 経済学部本体の改革

経済学部はグローバル人材と地域人材両方の育成を睨んで行く、文理融合教育の強化を進めるという方向を確認し、現在は当時考えていた通りの流れになっています。

7. ゼミでの人材育成

宮西ゼミで何をやってきたかというと、2015年以降の滋賀大の方向性は分かっています。賀大の方向性は分かっています。たので、まず従来からの財務経理の専門性を鍛える、2番目は語学力をつけて海外経験を1年位積むということに加えて、更に3番目にRやPythonというプログラミング言語を使ったデータ分析を強化すること

を盛り込んできました。

私自身が20代の頃、多変量解析をやっており、ちょうど第二次AIブームでもあり、データドリブンの分析ができるようになった最初の世代でしたが、それを一番新しいツールに入れ替えて、どう進化しているのか、私自身も非常に興味がありますし、それをゼミで本格的に取

り入れました。

トライアスロンプログラムと呼んでいますが、財務経理だけでも多分普通のゼミの3倍ぐらい勉強します。3つ合わせるととてつもない量で、ちよつとやりすぎじゃないかと周囲から言われています。滋賀大経済学部の卒業式で卒業証書を戴きますね。もう1枚宮西ゼミの卒業証書が欲しい。ゼミだけで125単位分ぐらい勉強する。そんな感じですとやっています。

8. 新体制2023

この2年間、体制整備委員長として経済学部の次期改革プランを作ってきました。

既に情報管理学科はデータサイエンス学部へスピニングアウトし、現在の経済学部は5学科体制（経済学科、企業経営学科、ファイナンス学科、会計情報学科、社会システム学科）ですが、これを一気に1学科体制にします。学科名は総合経済学科です。何でもある、全部あるという意味です。

そして経済学部の中身を3つの専攻分野に分けます。経済専攻、経営専攻、社会システム専攻、これは最小限の分類になると思います。今迄あった5学科を縮小するのではなく、再編

して3つの大きな専攻という括りにする。

今迄は受験のときに学科を選んで卒業まで同じ学科で学んでいました。その学科で必要単位を取らないと卒業できなかった。今後は1年、2年の時は幅広くどの分野でも必要な数学、統計とかミクロ、マクロ経済学などをしっかり学んでもらい、2年の秋、ゼミを決める頃に専攻を申請する。

3年から専攻分野に分かれる。しかも専攻毎の必要単位は最小限に抑えていますので、自由自在にどのジャンルでも学べるようなイメージで変更をしました。来春からはこの体制で行きます。文科省の了承も既に取れました。

9. 経済学部・3つの柱+α

これからの経済学部は三つの柱を重視して進んでいきます。

9.1. グローバルコース強化

これは10年前に作ったプログラムですが、1000人ぐらい応募があつて、選ばれるのが10人と非常に狭き門になっていました。本当は学びたい人全員受け入れたいという位、優秀な学生を多数輩出しています。これを何倍かに拡大するプランを作りました。

9.2. データサイエンスコース強化

日本初のデータサイエンス学部ができた時からデータサイエンス副専攻というプログラムを導入しています。経済学部の学生がデータサイエンス学部の授業も履修して認定してもらおう。これも需要が増えていることから、2倍以上の規模にします。

9.3. アントレプレナーシップ教育の導入

もう一つは経済学部でビジネス系のことを学んで最後に何が不可欠かと言われると、アントレプレナーシップ・起業家精神を鍛えるようなプログラムが最後のワン・ピースではないかと思ひ、これをここから6年間で強化したいと考えています。既に学生がシリコンバレーの研修を受けられるようにカリフォルニアの大学と研修受け入れの契約を結んでおり、今年度から二十

五名規模での派遣をスタートします。

9.4. +α

そしてプラスアルファのところですが、文科省のAI数理データサイエンス認定制度が昨年

から始まりました。簡単に言う

と初級、中級、上級があり、上級はプロのエンジニアになるレベルです。昨年初級の募集があ

り、滋賀大全体で応募しました。それで認定されたのが全国の国公私立大学で64〜67大学ありましたが、その中で10大学だけ+α（プラス）ができました。それは全国に範を示せるようなプログラムになっているという、そういうお墨付きをいただいたことを意味しています。今年中は

10. 滋賀大モデル

最後にありますが、私は滋賀大モデルということをやっています。この2年間で多くの陵水会の方と知り合うことができ、意気投合したり、自分の先輩が大勢

できたような嬉しい状況にあります。そういう方々と話す中で陵水会の人財のリソースはとてつもないと実感しました。

10.1. 陵水会OB・OGとワンチームで人材育成

今迄は大学教員が学生を教えるという当たり前のモデルでしたが、コロナ禍で大学のあり方も問われていますので、もっと本格的に実業界とタイアップする。しかも陵水OB・OGの方

とワンチームで人材育成できないかとずつと考えており、これからこういう方向でいきたいと思っています。

10.2. 英語によるビジネス講義

コロナ禍が直撃した2020年から、英語によるグローバルビジネスの講義をOBの方々を担当して頂いています。これは実は2019年に私が提案していたのですが、コロナ禍で留学も全部なくなり、政府の派遣プログラムもなくなりました。そこで、この授業で海外の大学やオフィスを繋いでNOAHでディスカッションをするとか夢のような授業を提供していただきました。

昨年もデンソーの方数名でメーカの前で英語によるビジネスの講義を提供して頂きました。大学ではこのレベルの実践的な授業というのは非常に難しいのです。今後はこれを正規の授業として拡大し、様々な業界の方や海外とも触れ合う、そういう風に発展させていきたいと思っています。

10.3. リーダーシップ論

陵水OBによるリーダーシップ論講義は2021年にリニューアルし、私も全講義を拝聴し

ました。感動して涙したことも多々あります。

今の大学生は、就職に関してコロナ禍で不安に思っていると思うのですが、陵水のリーダーシップ論を聞いて先輩の生き方を見れば、あまり不安に思うことがなくなるのではないかと私は学生にそういう点で推薦できると思いました。来年以降も続けていって、滋賀大学の歴史を形成するような資料にもなると思っています。

10.4 起業道場
起業道場というのは私が勝手に名前をつけたものです。

例えば、データサイエンス学部の学生グループが滋賀県の小学生にプログラミングを無料で教えたり、ビデオ教材を作ったりしているのですが、これを起業して本格的に全国展開できるように言ってきました。これはすごく筋のいい話だと思っ

ています。他にもYouTubeのような新しいプラットフォームを設計したいという学生がいたので、東京支部の理事の方をお願いし、起業経験豊富なOBの方を結構な人数紹介して頂きました。プレゼン、ディスカッションや

ドバイスを頂くということをやりましたが、大学生と思えないレベルが高いものがあり、感銘を受けました。

これからNext Ryoumiが本格的にネットワークの構築を加速していってくれると思うのですが、OBと現役生を繋ぐ形で起業道場を増やしていければと思っ

ています。

10.5 OB向けデータサイエンスプログラム提供
今年の夏からはOB向けのデータサイエンスのプログラムも無料で提供できるようにしました。

■むすびー世界で存在感を發揮する大学へ！
私はあえて「日本で」という

ことは講演資料に書きませんでした。元々ゼミ生とは「彦根から世界へ」、これをスローガンに掲げてきました。

竹村学長は彦根を「日本のシリコンバレーにする」と仰っておられます。これも同じ方向性だと思えます。世界にインパクトを与えるような教育研究の発信を目指したいと思っ

ています。

部そして教育学部の三つの学部でスパイラルを描きながら進化していきたいと思っ

パネルディスカッション

「滋賀大のDNA」要旨

宮西准教授の講演に続き、服部副幹事長の進行で2人のパネリスト及び宮西先生を含む4人でパネルディスカッションが行われた。

「パネラーの発言要旨」

■丸山貴宏（大34回）(株)クライス・アンド・カンパニー社長

◇伝田ゼミ、スキー部

◇幹部クラスを中心とした人材紹介の会社を経営しております。

◇1社目がリクルートで7年ほど勤めて後、今の会社を創って現在に至る。

◇宮西先生がケロッグ・マネジメントスクールへ行かれたのは大きく、そこで夢を持って帰ってこられたことは滋賀大にとってラッキーなことだったと思う。

◇当時リクルートは江副社長で高学歴志向が強く、関西だと京大、阪大、神戸大を大量に採用した。西日本の人事部50人ぐら

いの中で京大、阪大、神戸大以外が滋賀大と関西大で弓道でインカレ優勝した人と2人だけでした。

◇そういう景色の中にいて自分の中でコンプレックスではないが、大いなる違和感とこの中でなんとか残っていかないと、というふうにすごく思ったのを覚えてる。学歴社会はまだまだ一つの印としてありますね。

◇滋賀大卒は決して保守本流じゃないですね。諸先輩方もすごくいいところに就職されていますが保守本流ではなかったと思

います。その中で時代が大きく変化していく中で、期待された

り、傍流の人が抜擢されたりみたいな、そんな時代も味方して

いるいるやってきたのではないかと気がします。

◇案外みんな決まりきったことしかやっていなくて、思考停止している人が多いですね。リク

ルトといえども結構、組織の異じやないのですが、ちょっとヒネルだけでオツすごいな、とか言われるのですが、変わったことをやってやろうと思っ



HPを
支部は
動画を
ご覧さ
ください。

総会 東京支部 水会 陵水



ていた訳ではないのです。

◇正面だけじゃない見方をする癖っていうのは、生き残るって

いうところから始まって、ずっといつも培ってきたような気がしますね。

◇僕らがいたときの彦根はインベーションとは真逆の世界でした。スキー部でしたが、練習メニュー一つ変えるのも大変でした。

◇当時は縦社会、クラブ社会で彦根高商の伝統踏襲型の環境ですね。だって校歌の代わりに彦根高商歌を歌う訳ですからね、校歌は覚えてない、知らないです。やっぱりそういう世界でした。

◇とはいえ、そういう狭い閉鎖的な古い世界だからイノベーションが起こらないのかというところ、全然そんなことなく、その中に埋もれて思考停止してしまうから起こらない訳です。

◇その環境の中においても考え続けたりおかしいと思いついた、何とかしないといかんというときのハードルは高いですから、それを越えようとする、そういうところで何かDNAレベルのパワーが培われるという気がしますね。

◇OBはきっかけがないだけで現役の連中とか若いOBの役に立ちたいと、100%思っていると思いますよ。ですが接点が陵水会だけしかない。

◇僕は今日陵水会に初めて来ましたが、心理的ハードル高いですね。本当に若い人の役に立ちたいと思って、それをどういうルートで、どうしてというのが見えなかったりもします。

◇今ラインとかネットとかもい

っぱいありますし、うちの会社でもやっぱり面接とかジャッジメントというところでデータサイエンスといわゆるリベラルアーツ合体の部分だと思いますが、何かそういうようなことも共同研究できればなと思ったりします。

◇そういうことを思われるOBの方たくさんいらつしやると思うので、そういうことがスムーズに気軽に、行ったり来たりできるような仕組みについて服部君とか若い人たちが我々も含めて積極的にやってくのがいいのではないかと思いました。

◇滋賀大モデルは非常に面白いのではないですか。特に社会人の再教育、リカレント教育は本当に何かしらないといけない国の問題だと思えますし、いろんな所で色々やっています。その中で宮西先生がおっしゃったような滋賀大モデルの中で強みを生かしてやれば、それこそ尖ったリカレント教育ができるのではないかとすごく思います。

■越智道夫(大47回) パーソルグループ、ミイダス(株)執行役員 CMO
◇中島太一ゼミ
◇現在はパーソルグループのミイダスでマーケティングをして

います。

◇20年ぐらいユニリーバやロール、資生堂、あとパソコンのレノボ、NECパーソナルコンピュータを経てこの3月からパーソルグループの方にお世話になっていきます。ずっとマーケティングです。

◇ロレアルのときにオーストラリアで勤務していましたが日本人の感覚と海外の人の感覚はすごく違うなと思ってる。日本で通用したことが全く通じない。例えば、たくさんあることが日本では正義だったけど、海外では一つに絞ることが正義だったりする訳です。

◇宮西先生は米国で価値観が全然違う中で学んでこれられ、それを滋賀大に注入されたのかなというふうに思いました。

◇学歴ということではロレアルに入った時、周りは慶応卒、東大卒、京大卒とかで、今では自分の大学に誇りを持っています。が、当時は自分の大学名を言うのが恥ずかしく、何か既に負けている気がしていました。

◇滋賀大卒だからどこで勝つていくのだろう、自分はどこで価値を出していくんだらうということ

◇僕自身もいかにみんなが嫌がる仕事を率先してやるかとか、泥臭いこともやってきました。皆が嫌がる仕事をどうやって新しいやり方でやっていくか、常に筋を通して物事を考えるような癖とかそういうのを意識して、人と違う解決方法はなんだろうとか、新しいことを勉強しようとか、新しいことを勉強しようとか、そういうモチベーションにす

◇僕は体育会に入っていた訳でもないで、彦根との繋がりが深い方ではないのですが、逆に社会に出たときに彦根高商の先輩方がすごい人達であるということ、いろいろな方から聞かされ、そこで誇りを持てたということはありません。

◇狭い彦根で先輩方が集まって、個人的にも先輩から目をかけて頂きここまで勉強させてくれたこともあったり、そういう繋がりがあから変革とか考え方が変わったり、新しい見方ができたりとかそういうことはすごくあると思います。

◇データサイエンスについても何か実務をしているからこそ、このデータとどのデータを使うべきだという直感も働いたりする訳ですね。

ご宴会・ご婚礼・出張料理
レストラン(洋食)・ Grillフクシマ



〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号
TEL 03-3821-2181(代)
FAX 03-3822-1330
https://www.seiyoken.co.jp

上野精養軒
オンラインショップはこちら▶



◇データの使い方もそういう手法と実務経験の直感の部分とが合わさって正しい読み方をするということが大事になってくる。データサイエンスやるからこそOBの皆さんと絡んだり、知見を増やすことをやるともつと精度が上がってくると思います。

◇データサイエンスの勉強の周りにデータがそもそもないの、データをどうやって学生にOBとして提供できるかという所もOBと学生の間で色んなやりとりができるのではないかと思います。

■宮西准教授

◇実は2000年以降、全国の国立公立大学で滋賀大経済学部が最初にやったということはいっぱいあります。

◇学生は知っている人もいると思うけれどインターネット上で授業のシラバスや講義資料等も全部取れるようになっていきます。これは2003年から2004年に私と今IT系の会社を起業した学生と2年がかりで作ったもので自作です。

◇ケロツグ・マネジメントスクールでそういうシステムを完備していました。そこは電子ジャーナルも取り放題だし、図書館は24時間開いているし、それをまずやったのと、後は電子ジャーナルが日本の経済学部で3番目かな。それぐらい早かったのです。

◇そういうことを一杯やってきたその延長線上なので、私達としては、あまり驚きはないです。

日本の大学で最初にやるっていうのは結構やってきました。◇滋賀大卒にはそういう何か遅しくてエリートにはないものがありますね。

◇私が学生によく言っているのは、人の真似をするとか、美しい盆栽になるな、傷だらけの大樹を目指せということなんです。何か会社が危機的な状況に追い込まれた時にこんな人間おったのか、みたいな感じで力を発揮してくれるようなそういうのも良いのではないかと。いつも言っているのですが滋賀大卒にはそんな共通点があると、皆様のお話を伺って感じました。

◇OBと現役も含めて連携していくっていうことが滋賀大の持っている最大の切り札になると思います。

◇私が教えることはある一部ではないのです。現在もゼミのOB・OGが毎年50人とかNo.1だったら90人位世界中からOB会に参加してアドバイスをしてくれれます。

◇そこは何というか、全員で後輩を育てるんだということ、それを陵水会はあらゆる年代のOB・OGの方がおられますので、大学レベルでもそういう考え方で前進していったらいいの

ではないかというのが今日私の言いたかったことです。◇データサイエンス学部については統計学部でいいじゃないかという意見が結構ありました。確かに統計学部でも十分価値があるのですが、統計は理論があって仮説があつて、綺麗にそれを検証するデータが揃つていて、当てはまるかどうかという学問ですね。そこからデータサイエンスが何故すごいと思つたか。

◇データサイエンスはビッグデータの解析の中からまだ誰も理論化していないような仮説やモデルをどんどん発見していくのです。何か今、社会科学だけじゃなくサイエンス自体がちょっと行き詰まり感があると思うのですが、そこをAIとかそういう手法も応用しながら、データサイエンスで突破していくという、そこに僕は最大の魅力を感じました。

◇やってみると、そこから新しい学問が更新されていく可能性を秘めているなと思えました。そして、失敗したらどうするんですかと批判されたときに、失敗したらまたやり直せばいいじゃないですかと言つて、これが最後のやりとりとなりま

■服部コーディネーター

◇そもそも全国に先駆けて、データサイエンス学部ができた時はOB一同びっくりでした。滋賀大が先んじているんなことがあつて、そういうのもすごいですね。

◇改革とかイノベーションということで僕らがいた頃の滋賀大とは全然違うなと思います。

◇ほぼ30年間社会に出てやっていく中で私は、初めはJTという会社にいました。JTは学歴社会でした。今は学歴社会はなりたいですが、そういう学歴社会の中で滋賀大としてどうのし上がっていくか、生きていくかみたいなことを考えたりします。

◇宮西先生が中心となつていらっしゃる方々と大学改革をされていきますが、丸山さんや越智さんの会社人生と似たところがあるのかなと思つたりします。DNA的な話になります。DNA的に近いものがあるなと思つたりします。

◇DNAという話をテーマとして決めたときに先生とも打ち合わせをし、この2人とも相談しました。言葉が結構出てきました。僕の

◇実務と経営者を繋ぎ、理解を深めるためのリカレント教育といったことを踏まえて、滋賀大の

◇実務と経営者を繋ぎ、理解を深めるためのリカレント教育といったことを踏まえて、滋賀大の

◇実務と経営者を繋ぎ、理解を深めるためのリカレント教育といったことを踏まえて、滋賀大の

◇実務と経営者を繋ぎ、理解を深めるためのリカレント教育といったことを踏まえて、滋賀大の

◇実務と経営者を繋ぎ、理解を深めるためのリカレント教育といったことを踏まえて、滋賀大の

令和五年度支部総会について

講演者に
森本千賀子さん決定！

当番幹事 島津泰幸 (大34)

○開催概要

- 日時：令和五年七月一日(土)午後四時三十分開始～午後七時四十五分終了
- 場所：上野精養軒(オンライン中継は現状想定せず)
- 構成(案)：総会、講演会、パネルディスカッション、懇親会等

○開催コンセプト

彦根高商創立百周年の節目の年であり、幅広い世代の皆様お一人お一人に共感頂ける支部総会にできればと考えております。

○講演会・パネルディスカッションについて

講演については、滋賀県ご出身で「人材戦略」を専門分野とされ、テレビにもご出演される等、第一線でご活躍中の森本千賀子様をお願いいたします。

講演者選定に際しては、幅広い世代の参加者に共感頂ける方、旬な話題でお話頂ける方、という観点で候補を広く求め、「人生百年時代のキャリア

アの創り方」等世代・立場に偏らず興味をお持ち頂ける講演が可能の方とさせて頂きました。

パネルディスカッションについても熱のこもった意見交換ができるよう工夫して参ります。どうぞご期待ください！

○終わりに

旧交を温めて頂くと同時に、先輩・後輩の幅広い世代にわたる絆を再認識する賑やかな一日とすべく準備を進めて参ります。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

令和5年度 東京支部新役員紹介

(新) 東京支部副幹事長

藤井 登 (ふじい のぼる)

経済学部31回卒・小倉ゼミ
ヨット部
千葉県・国府台高校卒業



ヨットに没頭した大学生活でした。我々の代は後にも先にも唯一インカレが彦根で開催され

た代だったからです。信じる者は救われる。気が付いたら総合優勝を成し遂げ格好が付きました。彦根ありがとうございます。

社会人としての仕事は合併会社としての喜怒哀楽を味わう展開でした。日本興業銀行に入行。降って湧いた富士銀行、第一勧業銀行とのみずほ統合が始まります。巷間言われているいみじみ合いがあつたり無かつたりします。良いこともあります。最後の赴任は佐賀支店長、引継ぎ挨拶1番目は佐賀県知事です。最近魅力度ランキング最下位でしたが、良いところ満載です。

転じて次の職場は不動産業界でした。ここでも合併。興銀系興和不動産と日鉄系新日鉄都市開発が合併し中堅不動産会社となります。品川駅の海側にある大規模ビル品川インターシティを管理して大任を終えました。

これからは人生の出発点、彦根への恩返しです。副幹事長として精一杯頑張りますので、よろしく申し上げます。

(新) 東京支部副幹事長

青木 聡史 (あおき さとし)

経済学部45回卒・有馬ゼミ
アイセック

奈良県・明星高校卒業

同期のメンバーと話す彦根にいたからこそイノベーションが身につくのではないか、みたいな話がありました。どうでしょう。

◇例えば仕事現役ですとマーケティングを教える人間からすると、データサイエンスをどう使うかっていうのはOBで仕事をしている方が逆にできるのではないかと思っておりますね。

◇滋賀大モデルを先生に話して頂きましたが、そういう形でOB、現役、大学も含めて一体となって滋賀大モデルができてくると面白いですね。

◇リカレント教育は小さい大学ならではのものです、大きい大学ではむしろできないですね。

◇そういう意味ではリカレント教育をOB、現役、先生方も一体となって形ができれば、今日もしかして見て下さっている現役の方いるかもしれません、現役のみんなが社会へ出たときに、またさらに輪をかけて、一つになっていけたらいいですね。

令和四年度

支部総会を振り返って

当番幹事 西野忠宏(大33回)

令和四年七月二日(土) 支部

総会が上野精養軒にて開催され、一四名のリアル参加、四名のオンライン参加を頂きました。

竹村彰通学長、山田督理学長並びに会場でご参加の皆様、オンライン中継でご視聴頂いた皆様、支部役員ほか準備にご協力頂いた方々に心より御礼申し上げます。

当日の会場参加人数につきましては、感染症対策重視の観点より人数制限(卓人数を約二分の一)を施し、第一部・総会、第二部・講演会に加えて、第三部は三年ぶりに懇親会まで実施する事が出来ました。

オンライン中継では本年度も大50回の徳川さんのご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

第二部・宮西賢次准教授による「滋賀大学のDNAとは？」の講演会では、大38回服部副幹事長の進行で、宮西先生を囲んでパネルディスカッションまで実施致しました。

同期一同、至らない点等も多かったと存じますが、今後は一層陵水会活動に貢献致したく、宜しくお願い致します。有難うございました。



(新) 東京支部副幹事長
梅田 祐貴子(うめだ ゆきこ)

経済学部53回卒・弘中ゼミ
ラクロスサークル、新聞会
三重県・桑名高校卒業



このたびは、陵水会東京支部副幹事長という大任を拝命いたしました。

私は、滋賀大学経済学部でファイナンスを勉強しました。法学・政治学にも興味が出て、京都大学にて法学を学びました。その後、会社員としてマーケティング業務等に携わりました。仕事で出会う弁護士との交流を通じプロフェッショナルな知識や専門性を持って仕事を行う専門職に対する憧れを抱き、弁護士へ転向しました。都内の企業法務事務所で勤務後、弁護士法人を立ち上げることに、現在に至ります。主に医療分野・ヘルスケア分野に力点を置いています。一般民事事件や刑事事件も取り扱っています。

数年前、若手の卒業生で集まる「Next Prose」に誘って頂いたことがきっかけで東京支部の活動を知り、また、多くの卒業生のみなさまとの新しいつながりをみつけることができた発見の場でもありました。

令和3年度収支報告		令和4年度収支予算書	
事務用品費	8,399	事務用品費	8,399
手数料	101,717	手数料	101,717
雑費	5,400	雑費	5,400
当年度支出合計	1,654,133	当年度支出合計	1,654,133
当年度収支差額	▲32,534	当年度収支差額	▲32,534
前年度繰越金	2,542,291	前年度繰越金	2,542,291
収入合計	3,908,291	収入合計	3,908,291
未収金	0	未収金	0
基本引当金	1,060,000	基本引当金	1,060,000
現預金	2,848,291	現預金	2,848,291
【資産の部】		【資産の部】	
前受金	306,000	前受金	306,000
未払金	0	未払金	0
基本金	1,060,000	基本金	1,060,000
次年度繰越金	2,542,291	次年度繰越金	2,542,291
合計	3,908,291	合計	3,908,291
【負債・資本の部】		【負債・資本の部】	
年会費収入	1,119,000	年会費収入	1,119,000
総会費収入	222,868	総会費収入	222,868
寄付金収入	120,000	寄付金収入	120,000
新聞広告収入	156,700	新聞広告収入	156,700
本部活動助成金	3,000	本部活動助成金	3,000
雑収入	31	雑収入	31
利息	31	利息	31
前年度繰越金	2,574,825	前年度繰越金	2,574,825
収入合計	4,196,424	収入合計	4,196,424
【支出の部】		【支出の部】	
総会費	415,402	総会費	415,402
印刷費	410,822	印刷費	410,822
通信費	431,659	通信費	431,659
運営費	17,274	運営費	17,274
広報活動費	113,460	広報活動費	113,460
編集費	150,000	編集費	150,000
交通費	0	交通費	0
次年度繰越金	2,395,991	次年度繰越金	2,395,991
支出合計	2,395,991	支出合計	2,395,991

こんにちは

小川 文子さん (大36回)

(おがわ ふみこ)

恵富総合法律事務所
弁護士

20年以上金融業界に携われてこられた後、弁護士に転向。長年勤められた業界から新しい挑戦を決めたきっかけは何だったのか、小川文子さんにお話を伺いました。



小川さんの職歴..

1988年 大手都市銀行に入行。国際部門、証券部門調査役を担当。

外資系資産運用会社の投信営業部長、コンプライアンス部長を歴任。

外資系証券会社の内部管理統括補助責任者、業務管理企画室長等を歴任。

2018年 恵富総合コンサルタント開業。恵富総合法律事務所開設。

■彦根の冬ならではの思い出。
―専攻されていた学科は何でしたか？

小川 管理科学科です。ゼミは経済学の越後先生でした。たぶん、管理科学科がデータサイエンス学部の前身だったと思いますよ。

―学生時代の印象的な思い出はありますか？

小川 1回生の冬が豪雪だったんですよ。家庭教師の先から帰って、玄関まで雪が50cmくらい積もっているんですね。雪の中をザクザク歩いていたら靴が自然と脱げて、部屋の中について足を見たら傷だらけになっていて…その靴は次の春、雪が溶けるまで見つからなかったという思い出がありますね。それもあの意味いい思い出です。

あとは、留学させてもらったというのも大きいですね。

―留学はどれくらいの期間行かれたのですか？

小川 一年弱、4回生の9月から翌年6月まで、ミシガン州立大学へ留学しました。私は運がよかったかなと思うのが、4回生の時に初めて交換留学が始まったんですね。3回生の期末テストの頃、このまま卒業してもいいのかなと迷っていて、そんな

な時に掲示板で留学生募集を見つけて応募しました。

■金融業界への就職を選んだのは、当時の時代背景の影響も。

―学生の頃から金融業界に進みたいと考えていたのですか？

小川 あまりこだわってはいなかったですね。私は昭和63年に社会人になったのですが、女性の総合職をわりと数多く採用してくれたのが証券会社か銀行で行されたのが昭和62年で、いわゆる大量採用と言われたのが、63年だったんですね。そうは言っても男性の1割もいないくらいだったのですが、そういう意味でも留学で就職が一年遅れたのは運がよかったかなと思いますね。

■海外拠点管理や、金融商品の開発など20年以上金融機関で活躍。

―仕事内容は男性と違ったのですか？

小川 女性に向いているポジション、向いてないポジションを銀行で決めているようでした。私はそれで良かったと思っています。私なのですが、例えば私の後任は女性の総合職というように、ポジションの中でぐるぐる回る感じでした。私の時代は、半年間

はOJTで支店にいたのですが、半年後は本部に配属となりました。おそらくほとんどの女性総合職はそうだったと思いますよ。

―具体的にはどのような業務をされたのですか？

小川 半年間はOJTで支店にいて、その後、国際企画部で国際営業拠点の企画や管理をしていました。その後、国際業務開発部に異動しました。航空機ファイナンスなどその当時の流行りの商品を扱っていた部署です。そこから金融商品開発部という証券部門にいき、デリバティブ商品の商品開発をしていました。10年目くらいまではこのよ

うに銀行で勤めました。

その後、商品開発をしていたということ、当時子会社の投信投資顧問というところで、投信の商品企画を担当するようになったんですね。銀行本部から初めて子会社に向向になりました。

それから、外資系の資産運用会社や証券会社の3社で働きました。銀行と子会社を2社とすると合わせて5社で働きました。

―部署の異動や会社を移るのは希望して移られたのですか？

小川 いえいえ、部署異動は転勤ですし、外資系はどうですか、とお話があつて…。私は絶対これがいいとかこれじゃなきゃダメとかはなかったんですよ。やってみないと分からないですからね。

■「分かっていないことが分からない」をなくしたい。資格試験は、自分の今の理解度を確認するため。

―資格をたくさん取得されていますが、きっかけはあったのですか？

小川 国際部門にいる時は仕事するだけで大変だったのであまり意識していなかったのですが、証券部門に行くと、例えば証券アナリストは取得して当た



ジャパン SHIPPING サービス株式会社

代表取締役 **武田吉史** (大30回)

〒105-0004 東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング2階
TEL: 03-3580-7733(代) 03-3580-0711(直通)
Fax: 03-3580-7737 URL <http://www.jship.co.jp>
E-mail: info@jship.co.jp(会社) yoshi-takeda@jship.co.jp



り前という状況なんです。それで証券アナリストを取得しました。

実は私、資格試験をバカにしていたんです。毎日の実務で分かることなのに、どうして時間使って勉強して資格取らなきゃいけないの？と思っていました。でも証券アナリストを勉強

していると、業務に必要な知識をいろんな角度から勉強しなければならず、どんどん理解が深まっていくことを体感して、資格試験はバカにならないと気が付きました。その頃から、他にどんな資格試験があるのだろうと興味を持ち始めましたね。

その後、投信の商品を説明するために中小企業の社長さんとお話する機会がよくあったんですね。その時に、中小企業の置かれた環境などのお話を聞いて、それまで、中小企業の実情とか知らなかったので中小企業診断士を勉強してみようと思いい資格を取りました。

あと、投資家のもう一方は個人なので、CFPも取得したという感じですね。業務に関係のある資格を取得してきたということですね。

社会人には客観的なテストが無いので、「分かっていること

とが分からない」「分かっていたつもり」ということが結構あると思うんです。自分は絶対そうなりたくないと思っていたので、業務に必要なものについては客観的に自分の今の理解度を確認しようというスタンスはありましたね。

自分の知識を確認するために資格の勉強をされたんですね。小川 間違ったことを絶対お客さまに言ってはダメだと思っていました。お客さまから信頼してもらえないのは、人となり以上に知識だろうと思ったので、業務に必要な、自分の実力を確認する必要がありますね。

—簡単な試験ではないと思うのですが、働きながらどのように勉強されたのですか？
小川 職場まで片道1時間くらいだったので、講義内容の録音を聴いたり、あとは土・日曜で

■理解を深めるための勉強は、資格取得以外にも。
—一橋大学の大学院にも行かれたのですか？
小川 商品企画の仕事をしていて法律・規則を知らないといけないんです。当時の大蔵省が相手で、お墨付きをもらわないと商品が出せないのですが、話ができるためにはどうしても法律をある程度知らないといけないなと思いました。特に税金を勉強したくて一橋大学の大学院

に行きました。
—理解を深めたいと思ったことが今回はたまたま資格ではなく、大学にあったから大学に行

小川 そうなんです。法律だと、さすがに当時司法試験は無謀だと思っていたし、とにかく税金について勉強したいと思い、一橋大学に行きました。夜間でしたので、通えるかなと思いいチャレンジしました。

—お仕事しつつ夜間に通うのも大変なことだと思います。
小川 2年目に論文を書くのですが、実は仕事を1年辞めました。一橋大学の大学院は、弁護士や裁判官が専門知識を身につけたくて学生として通っている

私は、法律の基礎知識が全く無く入学したので、最初は何かなんだか分からなくて、それでも一生懸命授業についていたのですが、論文を書くとなると基礎を勉強し始めました。迷ったのですが、せっかくここまでやってきたんだっつらと思っ

—どうやって法律の勉強をしたのですか？
小川 伊藤塾という司法試験の専門の塾があり、通信の授業を受けました。それこそ通勤時に聴いたりしました。最初は全然何を言っているのか分からなくて、聴いていたらすぐ眠れるという感じでした。

ただ、今の自分の実力はどれくらいか客観的に知るべきだと思っていたので、勉強し始めてすぐから司法試験を受け始めたんです。最初は問題の意味すらよく分からなくてこれはまずいと思っていました。でも、分かり始めると結構おもしろくて、勉強を続けていたら、それがテストの結果にもだんだん出てきて楽しいと感じて勉強を続けてい

—弁護士になろうと思って司法試験を受けたわけではないので
小川 最初に司法試験を受けたのはあくまでも自分の客観的な理解度を知るためなんです。合格ラインなんてずっと上で全然受からない。最初は自分の実力を確認するためだけの試験だったのですが、ひよっとしたら受かるかもと思い始めたのが3〜4年目です。

■弁護士になることを決意したのは、ある出来事がきっかけに。
—法律を勉強しようと思ったきっかけはなんだったのですか？
小川 きっかけはいくつもあるのですが、論文を書くためにはもつと法律の基礎知識を勉強しなきゃと思いい勉強を始めたのがひとつ。

仕事の中で、弁護士と話をするために歩み寄らなければ思

商品企画だと、商品が法的に問題ないか確認してもらおうのですが、その当時は、デリバティブとかあまり知らない法律家も

多く、「今の金融取引で考えるのとどれに類似して当てはまるのか」を考えるんです。新しい商品なので類似は無いと説明するのですが、考え方が違ってなかなか話が通じず溝を感じていま



した。お話ししていると、法律の基礎用語、専門用語も出てきて、なんとかコミュニケーション取りたいなと思ったことが何回もあったんですよ。本当に何回もそれで、私も歩み寄って、法律知らなければいけないなと思い勉強しました。

—勉強していくなかで弁護士になろうと思っていたのですか？

小川 弁護士になろうかなと具体的に思ったのは、3・11東日本大震災ですね。この時、組織というものに対して懐疑的になったと言いますか。

当時、外資系の運用会社にいました。運用部の外国人は日本の株式に投資するのだから日本にいて日本を見なければいけないということ、日本に駐在で来ていたんです。でも、震災後その外国人たちが母国に帰って結構長い期間日本に戻ってこなかったんです。

その時に、組織ってこれだけの？組織ってそもそもなんだろうと思っただけです。せっかくだと法律を勉強してきたし、もうひと頑張り受かるかもしれないなら、それに集中した方がいいのではないかと考えるようになりました。

■弁護士になって大事だと感じ



るのは「人間力」
—今の弁護士としてのお仕事はどんなことを？

小川 まだ5年目なのでいろいろやっています。民事、家事、刑事、あとは会社の顧問も商事関連の案件もやっていますね。基本的に私の体力の7〜8割は金融業界に関する以外以外の案件が多いですね。

—市役所などの相談コーナーにも行かれるのですか？

小川 行きますよ。いろんな相談事とか悩み事を聞くのもある意味勉強と言ったら失礼かもしれないのですが、何か相談を受

ければ調べるので。なるべく時間があるときは顔を出すようにしています。

—弁護士の仕事をしていて、大事にしていることは何ですか？

小川 今の仕事でも金融でも同じですが、信頼を得るといことですね。

弁護士のほうが、専門知識ではなく人間力が大事かなと思うことがあります。金融で働いていた頃は、「信頼を得るには人間力よりも専門知識の方が必要だろう」と思っていたのですが、

弁護士はもちろん知識は当たり前なのですが、それ以上に、相手の話から、こういうことを言いたいのかなと、本当の悩み事・真意を引き出す力、聞く力が必要だと思っています。相手が本当に欲しがっている助言とか回答はなんだろうって思うようになりますね。

—今後挑戦してみたいことはありますか？

小川 やっていないことをやりたいですね。まだまだやったことのない案件の方が圧倒的に多く、弁護士の業務はケースによって違うのでそれを続けていきたいですね。

社外取締役とか会社関係のものもやってみたいですね。今ま

で組織の一員として中から見ていたのを外から見てみたいなと思います。

—若い世代にアドバイスをお願いします。

小川 何でもやってみることでしょうか。やってみないと分からないことがあると思うので。今やれるなら今絶対やった方がいいと思います。遅すぎるということはないとは思いますが、今だったらもっと効果的にできるということではなくさんあると思うのでやれる内にやってみて！とつくづく思いますね。

* * *

「私、絶対この仕事じゃなきゃとかこだわりとか、なかったんですよ」とおっしゃった小川さんがどうして長年勤めていた金融業界を離れ、弁護士になられたのか疑問に感じていました。その答えは、小川さんのお仕事に対する姿勢にありました。

業務で必要な知識を身に付けたい、また自分の理解度を確認するための資格試験。その学びの繰り返しに「弁護士」があつたのでした。

「分からないことが分からない状態をなくしたいという姿勢は、知識を身に付ける努力だけでなく、小川さんの「人間力」にも繋がっていることを小川さ

んのお話から強く感じることができました。

学歴・
1986年 ミシガン州立大学に国費留学し成績優秀受賞。
1988年 滋賀大学経済学部卒業。
2005年 一橋大学大学院国際企業戦略研究科経営法学修士コース（夜学）終了
2010年 一橋大学大学院国際企業戦略研究科経営法学修士後期博士課程（夜学）自主退学。

保有資格・
1987年 国連英検A級合格
1993年 シグマインベストメントスクール、スワップ業務Σ1級コース終了・合格
1996年 日本証券アナリスト協会 検定会員取得
2000年 通商産業大臣登録中小企業診断士取得
2001年 CFP (Certified Financial Planner) 取得
2003年 厚生労働大臣登録1級ファイナンシャル・プランニング技能士取得
2006年 日本証券業協会内部管理責任者資格試験合格
2015年 司法試験予備試験合格

2016年 司法試験合格
2017年 司法修習終了（配
属庁 横浜地方裁判所）
2019年 内閣府主催の女性
役員育成研修終了

滋賀大学経済学部附属史料館に
寄託されている国宝「菅浦文書」

淡海歴史文化研究所

所長 太田 浩司

日本の中世惣村文書を代表する
国宝「菅浦文書」は、滋賀県
長浜市西浅井町菅浦に伝来した
中世文書である。その発見の経
緯は謎に包まれている。一般に
は、大正5～6年（1916・
17）頃、同村に伝来した「開け
ずの箱」から発見されたと言わ
れ、その発見者は京都帝国大学
の中村直勝とも、滋賀県内の郡
志編纂者として知られる中川泉
三とも言われる。一方、明治16
年（1883）に菅浦村戸長の
名前で文書目録が作成されてお
り、少なくとも村人にとっては
「開けずの箱」ではなかったと
も考えられる。外部の研究者に
よって、その価値が認められた
のが、大正5・6年ということ
になるのだろう。

滋賀大学経済学部には、経済
研究所史料館当時の昭和26年か
ら寄託され、現在はそれを引き

継ぐ附属史料館で保管されてい
る。同館には、重要文化財の「今
堀日吉神社文書」947点、「大
嶋神社・奥津嶋神社文書」22
2点も保管され、日本を代表す
る惣村文書が3件も収蔵されて
いる。それらの翻刻にも取り組
む同史料館は、まさしく日本の
中世民衆史研究のメッカと言え
るだろう。



滋賀大学経済学部附属史料館

との2世紀に及ぶ堺相論（さか
いそうろん）を、住民自身が記
録した「合戦記」などが含まれ
ている。さらには、中世末期に
おける戦国大名浅井氏の統治の
実態を読み取れる史料もある
他、田島屋敷の売却状や、土地
台帳である検注帳なども含ま
れ、中世の土地利用の復元など
も可能である。

一方、国宝「菅浦絵図」は鎌
倉後期から南北朝時代にか
けて、大浦との堺相論に関して製
作されたもので、竹生島領であ
った菅浦の領域や、竹生島の伽
藍景觀などをよく描写し、中世
庄園荘図の代表作として全国的
に著名なものだ。

国宝「菅浦文書」は、中世惣
村（現在の菅浦自治会の前身）
の相伝文書「菅浦文書」1、2
81通と、その集落の南北朝時
代の状況を描いた「菅浦与（と）
大浦下庄堺絵図（菅浦絵図）」
1幅で構成される。文書の内容
は、菅浦の歴史を反映して多岐
にわたっているが、証拠を持つ
て村の裁判を行なうように定め
た村掟（むらおきて）や、村内
唯一の田地である日指（ひさ
し）・諸河（もろかわ）をめぐる、
隣村大浦（長浜市西浅井町大浦）

平成30年10月31日、国（文部
科学大臣）は、この「菅浦文書」
を「国宝」に指定した。「国宝」
とは文化財保護法によって国が
指定した重要文化財（有形文化
財）の内、世界文化の見地から
価値の高いもの、たぐいがない国
民の宝と認められるものを、さ
らに国が指定するものである。
その数は、重要文化財の内の約
1割にしか過ぎない。

書・寺社文書しか「国宝」指定
がなく、この「菅浦文書」の指
定は、初めて村落文書が「国宝」
になったことになる。また、庶
民が残した文化財が、美術工芸
品の「国宝」に指定されるのも、
日本で初めてで画期的な出来事
と言えた。



菅浦の景観

菅浦の集落は、文化庁が認定
する「日本遺産」でもあり、さ
らに文化庁が定めた新たな文化
財のジャンルである「重要文化
的景観」（景観そのものを文化
財として選定する）にも選定さ
れ、四足門など中世の雰囲気
色濃く残す集落自体も文化財と
なっている。「菅浦文書」の知
識を得て、この集落を歩くと、
我々の眼前には日本の中世が広
がる。是非、訪れて頂きたい集
落である。

太田浩司氏プロフィール

淡海（おうみ）歴史文化研究所
所長（長浜市）

昭和36年10月、東京都世田谷
区生まれ。昭和59年3月、明治
大学文学部史学地理学科日本史
学専攻卒業。昭和61年3月、明
治大学大学院文学研究科（史学
専攻）博士前期（修士）課程修
了。専攻は、日本中世史・近世
史。特に、国宝「菅浦文書」や、
戦国大名浅井氏、石田三成に関
する研究を行なう。

彦根・思いで・街歩き

「銘菓埋れ木」の本店いと重

東京陵水・編集部

水曜日の京橋口、彦根の観光
舞台「夢京橋キャスルロード」
は人出もまばらだったが、京橋
のお堀のきれいな水際から中秋
の爽やかな風が吹くかすかにのほ
り、あの頃の若さを思い出し快
く感じる事ができた。

同ロードを一〇〇メートルほ
ど南に進み左に曲がると本町一
重厚な看板



重厚な看板

丁目三番地。「いと重」本店の落ち着いた佇まいが目に入る。名刺を通し、当本店代表取締役藤田武史氏にお会いした。まず銘菓の製作現場を見せていただくことになった。直ちに藤田さんに車で現場ご案内いただく。



工場の風景

工場は明るくお邪魔して直ぐに、できたばかりの銘菓を最終工程でくるんでいる作業が目に入った。全工程で作業に取り組

さんの夫人が神仏の夢のお告げで和菓子屋をすすめられた。そこでお告げに従い和菓子屋に転向、糸屋重兵衛を「いと重」として店名にしたとのこと。井伊直弼は文化十二（一八一五）年の生まれでほとんど軌を一にしたと言えよう。

埋もれ木の前は「益寿糖」とよぶ短冊形をしたやはり和三盆糖をまぶした菓子が主流で顧客の人気を博していた。昭和三〇年代に入り、ようやく「もはや戦後ではない」時代が到来し、

和三盆糖をはじめとする原料も入荷しやすくなった。そこで先代（藤田益平氏）が抹茶と和三盆糖を組み合わせ和紙で茶巾包みの菓子を考案。特徴ある茶菓子を、茶席を好んだ直弼の埋木舎に準えて「埋れ木」と名づけたものである。滋賀大学卒五期生あたりから故郷への彦根土産に利用されるようになった。とにかく彦根出身者は何かといえ

ば「埋れ木」を故郷や近くの知り合いへの土産として喜ばれるようになった。現在、この名店を指揮しているのが藤田代表取締役、初代からおよそ七代にあたる。

お聞きするに、神戸大学経済学部を終えられてから銀行に入



藤田代表取締役

行。二十八歳から先祖代々の仕事に就かれたとのこと。先代の御父上は元陵水会東京支部長の宇治原嘉政さんと彦根東高校が同期卒業とのことであった。彦根市の「ひこにゃん」が全区の「ゆるキャラ」になったことがお店の一層の繁盛につながった。こんにちでは新しい感覚と多種類に亘る原料でアイデアのある新製品を生み出している。しかし現在の物価高によるお菓子の原料の次々の値上げでやりくりに苦労が多いとのこと。

店の経営の基本的な考えは「二味真」。一つ一つのお菓子に真心を込めて作り買っていたからこそと心掛けることで、直弼の「二期一会」の精神にあわせてそうだ。

藤田さんは彦根観光協会副会長として、また同市商工会議所議員を務め市の発展に心を砕いている。

近來滋賀県誕生の菓子屋として名前があがるようになった、

「たねや」彦根店が当店のすぐ背後に立地しているのには驚いた。彦根に行けば「埋れ木」を土産にすると家族がご機嫌なので買わせてもらった。



いと重の店頭

穏やかな秋日和、街は懐かしさを漂わせていた。母校の正門を出て右に行くくと外堀だ、東に長く広がり午後の傾いた光を水に漂わせ、整頓された城の石垣を映しているお堀の美しさは、古典そのままの街と言っているほどだった。

折角の「埋れ木」。埋木舎を訪れない手はない。彦根を故郷の友人に案内するたびに母校と合わせて訪れたところだ。「尾末町」の標識が直弼を彷彿させて玄関まで辿った。入口で写真が撮りたいと守衛に。すぐ許された。

「いと重」はもともと、長浜ちりめんを商う関係で糸を大きく商っていた。文化六（一八〇九）年のある日、糸屋重兵衛

産経新聞

『日本に産経新聞があつてよかった』と
思っていただけの新聞でありたい



産経電子版 For 産経ID

※お申し込みの際は、右記のキャンペーンコードをご記入ください。

1 5 1 0 0 1 0 0

思いつくまま、レポーター・メッセージー!

幅広い年代の皆様が気楽に紙面を通して交流をはかれるよう、メッセージを届けて頂きました。

私の近況

松浦紀久雄(大11回)

大学11回卒業の松浦紀久雄でございます。陵水会(特に東京陵水会)の皆様のご活躍ですばらしい成果につなげて頂いていることに感謝いたします。今後とも益々のご活躍に期待させて頂きます。宜しくお願ひします。

この頃思うこと

富田 博司(大15回)

卒後早や55年を経て振り返ると世の中激変しました。①日本の人口の大幅な減少②世界情勢の激変③日本経済の慢性的停滞④日本国の未来への羅針盤の欠如、等極めて厳しい環境が大学運営にも待ち構えています。過去の栄光も伝統も通用しない時代を迎え、100年後の母校の繁栄を期して、破壊的出直しに活路を求め、大学関係者、学生、OB会の皆様の奮起を期待します。

私の地域活動

木津 勝治(大16回)

定年退職して間もない2005年、「AAネット浦安(アクトイブエイジング・ネット浦安)」に入会した。シニアライフを創造的に、地域で生き生きと過ごすことを目的に2000年に発足した団体である。入会してすぐに50名を超える地域の知り合いが出来た。今では浦安市内在住の仲間90名とともに、月例会のほか九部会の開催する行事に楽しく参加している。私は経済法律部会を中心に活動し、二年間会長を務めたときには「鎌田實先生の講演会(健康長寿の人生論)」を浦安市と協働開催した。AAネット浦安での活動は、地域の仲間を増やし、退職後の生活を更り多いものにしてくれた。これからもこの会の運営や行事に積極的に参加し続けたい。公開ホームページ

「a a ネット浦安 検索」

彦根は遠くなりにつけり

岡本 幸博(大25回)

卒業して45年、なくなってしまう言葉や思い出を振り返りました。二期校 滋賀大の反骨精神はここからです。合格者名簿 個人情報云々がなかった時代、クラブ勧誘で自宅まで押し掛けたことが：

新入生歓迎コンパ 寮での井酒は今やジュースか？
身体検査とうりやんせ やる方は結構面白かった。
貸間 旧家の空いている部屋を下宿、鍵はないしプライバシーもなかった。

彦根ベーカーリー 早朝から開いていて徹夜(勉強ではない)明けは重宝でした。
喫茶スイス 令和4年まで生き残り50年の幕を閉じました。

銀座街 VANの店も西友もあって輝いていた。

県短 2005年廃校、将来の伴侶を見つけた方も多かったです。

す(現在は滋賀県立大学となり八坂に移転)。

合ハイ 若い後輩は何の事か誰も知らない。

松原湖岸うさぎ跳び 膝に良くないのでやらなくなり、今や鳥人間の聖地に：

城山ダツシユ 練習だとただで入れました。新歓マラソンは彦根城経由だった。

平屋の彦根駅 女工さんの帰省の指定席とるため徹夜で並ぶアルバイトもあった。

彦根セントラル あの頃は純情で入れなかった：

松原回転橋 私の時代にはなかったですが昭和42年迄あったそうです。

故北居先輩のこと

緒方 俊輔(大29回)

ポート部OB会の幹事の一端を務めていると令和二年三月に逝去された大十八回北居和夫先輩のポートへの情熱、勝利への執念、その一方で人を包み込む温かさを思い出します。ポート部監督、OB会会長、団塊号というシニアポート倶楽部の重鎮として、本学OBだけでなく多くのポート競技関係者から尊敬されていました。

α+ ALPHA PLUS CO., LTD.

代表取締役 **岡本 幸博** (大25回)

株式会社 アルファプラス

〒274-0813 千葉県船橋市南三咲3-5-48

TEL 090-3220-0595 FAX・TEL 047-449-3633

URL <https://alpha-plus.co.jp/> E-mail : okamoto@alpha-plus.co.jp



- ・一般ファッション生地以外に吸水拡散して防水できる生地扱っています。
- ・電磁波防止、廃棄食品で染色した生地、和紙で作った生地もあります。

いまでも北居さんに励まされていきます。

日本地熱協会のこと

正面 順久(大31回)

約10年前に再生可能エネルギーの一つとして地熱発電推進を目的に設立された「日本地熱協会」という団体ですが、このたび三井石油開発(株)を退職し同協会の事務局長(2代目)に就任しました。理事長とともに協会運営に携わります。資源エネルギー庁、林野庁、環境省など国の行政に対し地熱業界としての政策提言をすることが主な活動で、地下資源量は世界3位の地熱大国でありながら進捗が鈍い状態になっている本邦地熱発電の推進に尽力してまいります。

最近思うこと

柳 雅二(大32回)

私は大学選択に際しては、お世話になっていた先輩(滋賀医大の先生)からの薦めもありました。さらに就職の時も人事部の方との片言のご挨拶のみで、翌日には内定を頂きました。社会では多くの顧客に学び今があります。人との

ご縁が機会や転機に繋がると、今更ながら痛感しております。これからも、ヒトに関心をヒトに興味を持って学びたいと思います。世間は、魍魎魍魎が跋扈、建学の精神である『士魂商才』を想起する時。

人生100年時代の仕事の流儀

小川 文子(大36回)

人生100年時代と言われるて久しいが、私は、大学卒業後20年超従事した金融業界から転向し52歳で弁護士になった。弁護士になった当初は、仕事の内容や周囲の人々も異なるので、新しい流儀で仕事をしなければならぬと思っていたが、弁護士になって約5年が経過した今、本質は同じだと考えるようになった。それは、どんな仕事であれ、相手から信頼されるよう努力し続けることだ。

転職のお知らせ

岡村 和哉(大51回)

この度の人事異動で東京を離れ、関西に戻ることにとなりました。平成16年4月に当時の勤務先の大阪から上京し、

およそ18年、東京にいたことになり。滋賀には「琵琶湖の鮎は外に出て大きくなる」という近江商人を象徴する言葉があるようですが、大きく変わったのはお腹周りだけのような気がします。遠くからではありますが東京支部の活動を楽しみにしております。お世話になりました。

Mensaje de español

スペインからのメッセー

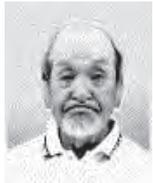
ジ!

伊集院蝶子(大67回)

Hola a todos! こんにちは、みんな! サントリーホールディングスの伊集院です。2022年4月よりマドリッドに赴任し、現在は主にウイスキーの価格戦略を担う部署で、奮闘しているところです。公私共に文化の違いに驚かされる毎日ですが、太陽の様に明るくスペイン人に支えられながら、全ての経験を学びに変えて今後も精進して参ります!

寄稿

平成の支部長・幹事長



平成の支部長・幹事長
水野 隆
「平成の支部長・幹事長」を語る

著方 海三(大4回)

口廣太郎アサヒビール元社長などの先輩。また評論家の彦根出身田原総一郎氏、元滋賀大教授佐伯啓思氏などを招いて充実した講演会が好評だった。

まずは「彦根高商、滋賀大学経済学部通算百年」を祝し、かつ「東京陵水110号発刊」に敬意を表します。ここ十年余盛

会を続けてきた総会も、コロナ自粛にはやむをえない状況ですが、近く平常に戻り再びの盛会を念じ、幾多の危機を乗り越切った過去を振り返って、以前「東京陵水100号」に寄せたことを題材に思い出しています。

私が東京支部に関わりを深めたのは、平成二年二月に始めた「ゴルフ会」であった。わずかに十二名であったが、新ペリアで私が優勝、二位が後の支部長小池氏、三位が当時の支部長川本氏。以後年四回の開催を維持。ゴルフ幹事長から支部幹事長として総会の企画立案に関わってきた。

当時は支部総会の出席者が百名前後の時期が続いたが、記念講演には宇野宗佑元首相や、樋

実効を上げてきた。

更に解決すべき問題があった。当時の「東京陵水」編集者が高齢で活動を退きたいとの申し出を受け、後任の編集部づくりに苦勞した。たまたま母校の陵水新聞を終えたばかりの会員から、そのOB会がしばしば開催とのことを聞き、説得して四人のメンバーに編集発行の担当を了解してもらった。

当支部として事務局の充実は緊要であった。この打開策として支部長がオーナー経営者であることの利を考えていた。前任の川本茂支部長が身近な関係者で支部事務作業にあたっていたが、平成九年度から小池英夫氏が支部長に就くことで同氏経営の富士貿易に事務所を定め事務要員も確保できた。

以降五年間富士貿易は十五年からの宇治原氏を支え、西坂氏になってから、その後の守谷氏、小椋氏、竹森氏と守谷輸送機工業に事務局を置き、専任の事務局担当役員として田村氏がサポートした。

以上の諸問題の検討、解決にあたって「陵水ゴルフ会」で得た人間関係が大きく寄与したと考えている。諸問題の解決にあたり自分なりに考えを深めると

同時に、多くの仲間から知恵をいただいたことに感謝している。

ゴルフ会では平成二十四年の第九十回記念大会までの優勝回数七回。会員中最多記録となつた。

近況は、八九歳の現在もターゲットボードゴルフ、グラウンドゴルフを週二回。卓球も週二三回で、先日も練馬区の卓球大会で、若い人に交じり、二勝の元氣です。

懐かしき思い出

宇治原 嘉政(大7回)
晴れた秋空の下、新装なった講堂の建物が燦然と輝いております。

郷里彦根へ戻って8年、好天の日散策に城山を眺めながら、お堀に沿って中堀通りの歩道を進むと、この美しい光景が目に入り、飛び込んできます。創学百周年の記念行事はここでいくつかが行われるのでしよう。

今を去る20年前、東京で当時陵水会東京支部長であられた小池氏より後任の支部長を要請され、自信なきまま戸惑いながら、お引き受けすることになりました。創学八〇周年の記念事業として「創立八〇周年記念学術後

援基金」がスタートし、この募金活動が小生の支部長としての大きな仕事となりました。

連続しての長い海外勤務で(香港六年半・ニューヨーク三年)陵水会会員諸兄との接点構築から始めなければならぬと思いつつ不安と心配が先行しておりました。しかし有難いことにそれらは杞憂に終わりました。先輩・後輩諸兄より当初からご支援ご協力をいただき、なんとか任務を全うすることが出来、今も感謝の気持ちでいっぱいあります。

当時より大学の運営は文部省当局の監査・指導が厳しくなり新しい局面の打開が求められておりました。この厳しい状況下、新任の佐和学長は、この状況を的確に捉えられデータサイエンス部の創設を決断、滋賀大学に経済学部と並んでデータサイエンス学部が誕生し、スタート致しました。デジタル時代に内外の競争が激化するなか時宜を得た学部の新設と内外より高い評価を受けました。

佐和先生は WIKIPEDIA へのペーパーのなかで次のように書いておられます。「アメリカの統計学会のニューズレターによると、二〇一〇

年ごろを境に学士課程で統計学をメジャーにする学生数が急増しており統計学の学士・修士・博士の給与水準がコンピュータサイエンスと並んで最高の水準に達している」と述べておられます。

佐和学長はデータサイエンス学部の新設に際し、開設・運営の指導者として東大より竹村教授を招聘、二〇二一年には最初の卒業生を世に送り出せることが出来ました。今年、竹村教授は学長にご就任、今後の更なる発展が期待されております。

デジタル・トランスフォーメーションが喧しく取り上げられている中、そのベースとなるデータの重要性は高まりこそすれ減ずることはありません。時代の要請に応じて母校が優秀なデータサイエニティストを輩出できるよう陵水会員も出来る限りのサポートを続けたいものでもあります。

思い出し些事の断片

田村 寿夫(大12回)
昭和三十九年、新卒の年に、同窓の先輩に連れられて東京支部の総会に顔を出したものの、その後四十年疎遠のままに過ごしました。

相続税対策・申告、贈与税申告のご相談ならば

公認会計士 松澤 進 事務所

法人税・所得税(確定申告)・相続税・贈与税・学校法人監査

〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目17番15号401

電話: 03-6423-0383 FAX: 03-6423-0382

ホームページ: <https://www.tax1st.jp>



所長: 公認会計士・税理士 松澤 進 大学38回・平成2年卒

ウインドサーフィン部第6代主将 会計士同好会昭和63年度会長

れる。母校でも、戦後延々と続けて来た2学部体制からの脱却を前提に、第3学部の設置に向け本格的な検討が始まった。やがて関係者の熱意が、時代の要請と相俟って、我が国初の「データサイエンス学部」の誕生となって結実した。普段地味な存在である母校の動向に、時代背景も手伝いマスコミも注目した。学会、産業界からも熱い視線が注がれ、陵水会までもが、母校支援に熱心な同窓会として、早慶と並び週刊誌に大きく紹介され、会員一同、大いに溜飲を下げたものである。

DS学部の設置に照準を定めた当時の佐和学長の英断は、まさに慧眼。社会の情報化が急速に進展する中、それを支える人的資源とのミスマッチに真正面から立ち向かったものとして各界から高く評価された。

昨年、新学部から1期生が輩立ったが、一部はそのまま修士課程と進み、企業から派遣される院生と切磋琢磨するという、彦根発の新しい教育モデルが展開され始めた。経済学部の方も、1学科体制への移行や、学部間への転換を目指し、着実な布石を打ち始めている。

来年(2023年)はいよいよ彦根高商創立百周年を迎える。陵水会員の一人として、百年の伝統の重みを噛みしめながら、次の百年での輝きを確信できる素晴らしい記念の年となることを願うこと頻りである。

ゴルフ談義

東京陵水ゴルフ会

(第124回〜第127回)

東京陵水ゴルフ会は30余年の歴史を有し、OBの親睦と健康増進を目的とし、毎年4回の親睦コンペを開催し、ゴルフを楽しむ、汗をかきながら、和やかに親睦を深めています。メンバーは80代から60代後半が主ですが、40代の方もいます。健康を維持するためには、定期的な集いに継続参加することが有効であり、またゴルフ技量向上を目指す方は、定期的なコンペ参加で、技量向上が確認できます。初めて参加しても、同窓の誼で気兼ねなく、ゴルフが楽しめます。会の盛り上がるのにも、新しい方の参加を待っています。

第124回大会は2021年

12月21日開催。第125回は、4月19日開催、第126回は6月28日開催されました。第127回は9月20日開催予定でしたが、台風14号到来により中止

各回において若手・ベテランの諸氏がそれぞれ奮闘し、毎回優勝者が変わる白熱した戦いが展開されました。また参加者全員楽しくプレーができ、親睦を深め、所期の目的が達成できました。本年も多数の方が参加し、楽しいゴルフコンペとなるよう期待しています。

【各回の戦績は左記の通りです】

第124回大会

成績(上位入賞者・各賞獲得者)
優勝(上位入賞者・各賞獲得者) ネットスコア (ハンデ イキヤップ)

- 優勝 上野恵三(大20) 74(4)
- 準優勝 平居俊雄(大12) 76(27)
- 3位 丸居 裕(大14) 76(24)
- 4位 玉置辰司(大23) 76(17)
- 5位 柴田吉典(大19) 77(15)
- BB賞 岡本幸博(大25) 90(30)
- ベストグロ 上野(大20) 78
- ドラコン 川崎・上野
- 短 田川・平居
- ニアピン 丸居・川崎・上野

第125回大会 能島

成績(上位入賞者・各賞獲得者)

(卒年) ネットスコア (ハンデ イキヤップ)

優勝 川崎憲夫(大17) 70(14)

第126回大会

成績(上位入賞者・各賞獲得者) ネットスコア (ハンデ イキヤップ)

- 優勝 能島伸夫(大22) 73(15)
- 準優勝 上野恵三(大20) 75(2)
- 3位 高見政史(大26) 77(8)
- 4位 日高信次(短9) 80(14)



第125回 東京陵水会コンペ 金乃台CC R4.4.19

5位 中岡浩三(大23) 80(26)

コンペ参加連絡は下記メールアドレス宛連絡下さい。

田口良三: fwnx8165@nifty.com 田口 良三(大23)

東京陵水会 囲碁会 便り

○令和4年6月18日(土) 全国情報サービス産業厚生年金基金会館

優勝 森本忠徳六段(大9) 準優勝 聖成崇夫八段(大17) 第三位 鈴木克治八段(大14) ○令和4年11月19日(土) 全国情報サービス産業厚生年金基金会館

優勝 神崎栄次六段(大3) 囲碁大会は6月と11月の第3

土曜日に年2回開催しております。時間は午前10時から午後5時となり、午後5時から懇親会（希望者のみ）を行っております。参加費はより多くの人に参加して頂けるように今後は1,000円（昼食代を含む）とし、その代わり入賞者を減らしていくつもりです。なお懇親会費は従来通り2,000円となります。

新しい参加者は大歓迎です。参加希望者は左記までご連絡下さい。

幹事 鈴木 克治
住所 〒277-0085
柏市中原1-4-24

携帯 090-5539-6848
自宅 04-7115-7371
https://chiyoda-gakuseikai.com/

令和四年 詩吟の会

宮野 幸雄（大12回）

今年、私達、詩吟の会が所属している千代田岳精会の35周年記念大会が江戸川区のタワーホール船堀で250名余の会員が参加し、その内、陵水会員25名も全員舞台上立って日頃の研鑽を披露いたしました。

当日の様子はホームページの中に動画撮影をして公開しておりますのでご覧ください。

詩吟研修もコロナの影響で会場使用など支障を来しておりますがZoomの活用で吟詠を楽しんでおります。

この様な楽しい詩吟をもっと多くの方にも馴染んで頂きたいと思ひホームページに大先輩の鈴木会長の様子を掲載しております。誰でも吟詠が出来るように、詩文も同時に載せております。一度覗いて見て下さい。

詩吟は年齢を重ねる毎にその味わいが感じられます。知的好奇心を高め、健康を増進し、仲間との付き合いが深まります。千代田岳精会のホームページを是非ご覧下さい。



陵水散歩会

林 史欣（大8）記

令和三年十二月二日（木）

「紅葉の世田谷散歩」

コース…上野毛駅～上野毛自然公園～野毛大塚古墳～日本庭園～等々力不動尊～等々力溪谷（電車）～九品仏浄真寺～九品仏駅。

都内でも有数の紅葉見物ルート。近くに住む友人の案内もあ

って上野毛の高級住宅街を住む人の説明を受けながら歩く。多摩川丘陵に沿って数多ある大古墳の一つ。日本庭園の紅葉がこまやか。不動尊の紅葉は境内を飾る。轟木溪谷は比較的緑が多い。谷川沿道は気持ちよく整備されせせらぎの音が静かにこもる。九品仏、三つのお堂を中心に京都の寺の紅葉に似た快い雰囲気。秋の世田谷は楽しかった。

（参加者十人）



嘗ての大名屋敷跡の見事な樹木の多い庭園。がけ地をうまく使って池と樹木の配置が好ましい。桜の大樹も豪華な花飾り。翡翠会館は休館で玄関前の原石の大きさに驚く。目黒川まで所々の桜を仰ぎながら坂を下りる。川に沿って両岸を右に渡り左に渡り。桜花爛漫の散歩道。時間が過ぎるとマスク姿の花見客で道が溢れ、いつの間にか目黒駅前の人波に飲み込まれて

（参加者六人）



令和四年五月二十四日（火）

「烏山川緑沿道の草花逍遥」

コース…経堂駅～烏山川緑道口～宮の坂駅～豪徳寺～国士館大橋～環七通り～三宿神社～北沢川合流点（ここから目黒川）

池尻大橋～バスにより渋谷駅。陵水散歩会も当回で一二〇回になる。燦爛とした五月晴れ。季節の花も見事に咲いている。井伊家菩提寺の豪徳寺本堂に一礼して直弼の墓前に集まる。静寂の中に堂々とした墓石。寺から緑道に戻ってひたすら花と道の傍らに清流を流す小川に沿って、季節の花の可憐な花を愛でつ歩く。三宿神社が世田谷では珍しく高台に建つ。くたびれま

（参加者六人）



令和四年十月二十八日（金）

「新架設多摩川スカイブリッジを渡る」

コース…穴守稲荷駅～穴守稲荷神社～天空橋～多摩川スカイブリッジ～川崎殿町公園～小島新田駅から大師駅まで電車～瀨秀園庭園～大師駅～京急川崎駅曇っていた空も集合する時間



交わす。 (参加者六人)

★今期の参加の皆さん

までには晴れて散歩日和になった。風格のあるお稲荷様で願掛け。天空橋の鉄橋を渡る。羽田飛行場の広大な開発予定地の新道を進み目的の橋に。六百五十メートルの長さを、広く流れて輝く多摩川を橋下に見、仰げばまさに着地の姿勢をとる幾つもの大型旅客機を仰ぎながら渡る。開発が進み新しい事務ビル

東京陵水 文芸

俳句・短歌・漢詩・絵

俳句

中川 郁三 (大5)

蓮咲くや我を見に来る亀と鯉

蓮が咲きそろった。見下ろす私の方に鯉が群れをなして近寄ってくる。亀も負けじと首を伸ばす。餌を求めてのことだがあ

たかも私を見に来るよう。

夏(なつ)のころ草(くさ)ゆれて蜻蛉(せみ)を拒(こ)みおり
猫(ねこ)じゃらしが風(かぜ)に揺(ゆ)れてい
る。止(と)まろうと蜻蛉(せみ)が寄(よ)って
くるが撥(は)ね退(ひ)けられてなかな
か止(と)まれない。まるで草(くさ)が蜻蛉(せみ)を拒
んでい(い)るようだ。

乱(らん)闘(とう)に似(に)たる産(う)卵(らん)鯉(り)の夏(なつ)

高松市の栗林公園。池の水路

が激しく騒立っている。鯉が集まって大騒ぎの産卵劇。初めて見る景だが正に大乱闘である。

鉄橋の轟音過ぎて昼の虫

江戸川の河川敷。入院の妻を見舞いに通う。鉄橋を渡る電車が轟音を立てて通り過ぎる。戻った静寂に昼の虫の声が聞こえる。

お帰りの声永遠に絶え晩夏光

四年半前妻が他界した。私は独り鍵を開け玄関に入る。遺影のある暗い部屋のほうに向かい大きな声で「ただいま」。静まり返った空間にいつもの「おかえり」の声は返ってこない。

短歌

浦谷 政夫 (大7)

第一歌集「うみなる湖」より

出でたるは捨てたることにはかりなく今にし思ふふるさと遠し

泥んこになりしも泥田に遊ばざりき神聖なるをけがさざらめと

老い母の糸を通せぬその様を笑ひてをりしが笑はれる身に

第二歌集「柿の木」より

木犀の花のかをりの玄関に匂ひて香し雨降り続く

いまだぬる玄関前のライオンのしつぽの長きにはじめて気づく

喋れずはいと悲しきや饒舌になくて寡黙にありて満たさる

漢詩

歳朝偶感

歳朝偶感

●○○●●○○○

(起) 歳朝精爽一天寒
歳朝精爽にして一天寒し

(承) 孫子寄來俱晚餐
孫子寄來たり俱に晩餐

(転) 聞道故郷深雪處
聞道故郷深雪の処

(結) 願兄夫婦得平安
願う兄夫婦の平安を得るを

【語釈】 * 歳朝…元旦の朝
* 清爽…清らかで爽やか。明るくて爽やか * 聞道…聞くところによると

【通釈】 元旦の朝の空気は清らかで爽やかであり、空は晴れて寒い。こんな中(二年振り)で子や孫達が集ってくれ、夕餉を

共にし楽しんだ。一方、報道によれば故郷は大変な積雪との事。(かつては賑やかであった親元の)年老いた家長夫婦は二人きりで如何に過ごしていることであろうか?ただ息災であれと願うばかりである。

(平起式 寒韻 七言絶句) 柴田 豊彦 (大16)

冷風凜凜夜窸穿 亡友の靈前に哭す

冷風凜凜として夜窓穿ち 聞計吞聲淚淚然

君逝きて凄涼永訣 往時彷彿哭靈前

往時彷彿として靈前に哭す

冷風凜凜夜窸穿 亡友の靈前に哭す

冷風凜凜として夜窓穿ち 聞計吞聲淚淚然

君逝きて凄涼永訣 往時彷彿哭靈前

往時彷彿として靈前に哭す

令和四年の一月には親しく共に学んだ吟友が亡くなり、その半月後には共に机を並べて学んだ同級生の吟友が亡くなった。

相次ぐ親友の訃報に接して呆然としたが、新型コロナの蔓延のため、最後のお別れも叶わず、悲しさとさみしさが一層身にしみた。ただ両君のご冥福を祈り涙するばかりだ。

(平起式 先韻 七言絶句) 田川 行雄 (大9)

田川 行雄 (大9)

絵画

「法起寺の三重の塔」

「小岩井農場」

F 20号 油彩

F 4号 水彩

編集室 所感

「惜別、三鷹跨線人道橋」

F 15号 油彩

尾本 政二(大8)

たまたま自宅のあった三鷹に住みついて50年になります。子育ての頃によく散歩に出かけた電車庫の跨線橋が、近々撤去されることになりました。

古いレールで組み上げられた如何にも昭和初めを偲ばせる建造物です。近所に住んでいた太宰治お気に入りの散歩場所だったと伝わっています。また一つ昭和が消えていくとの情報で、あわてて油絵に描きとめておくことにしました。夕日・富士山・幼児連れの取り合わせという少し創作を入れて仕上げました。



絵画は左のQRコードからフルカラーでご覧いただけます。



平屋の彦根駅

カルチュア教室の写真集に、三重の塔の写真を見つけ、絵の題材として取り上げさせて頂きました。塔は奈良県の斑鳩町に

あります。ここには法隆寺、法輪寺、法起寺があり、各々のお寺に塔があり『斑鳩』の三塔と呼ばれている一塔です。この塔は706年に聖徳太子により建立され、現存最古の国宝の塔であり、世界文化遺産です。

絵の周りの花々は休耕田を利用し、皆さんでコスモスを育てておられ、秋には一面のコスモスの花に囲まれ、世界が一変します。古代から現代まで、暖かい人の心がしのばれます。

コロナ感染の波間を縫って、岩手県の小岩井農場でスケッチしてきました。

小岩井農場は、日本の鉄道に父とも言われている長州出身の井上勝が荒涼たる当地を開墾しようと当時三菱財閥の小野義真に相談し、二代目三菱社長岩崎彌之助の出資賛同を得て明治24年(1891年)農場開場となったものです。この関係者3名、小野・岩崎・井上の頭文字をとって「小岩井農場」と名付けられた歴史的価値ある農場です。大自然に囲まれマスク無しで早描きスケッチしました。

昨年1月には、コロナ過も収まると思っていました。とうとう令和5年を迎えても収まらない事態になってしまいました。

その中で、編集部として令和5年度の「彦根高商創立百周年記念」の陵水会自体の取り組みを支援するべく紙面を構成し、更に陵水新聞の課題である若い世代の取り込みに新企画を掲載しました。本学の指針を見極め会員皆様の支援の輪がさらに広がることを期待しています。共に、さらなるご鞭撻を頂きたいと思えます。

(吉)

180年の時を超えて、近江牛発祥の地「滋賀県竜王町」から近江商人ゆかりの地 東京日本橋に誕生
1839年(天保10年)創業

滋賀竜王・岡喜牧場直営

近江牛岡喜 日本橋店

日本最古のブランド和牛近江牛

COREDO 日本橋 4階
〒103-0027 東京都日本橋1丁目4-1

☎03-6262-1329

近江牛 岡喜の
アプリダウンロード
はこちら



令和4年度 東京支部年会費ご納付ありがとうございました。

令和4年11月30日現在

大今伊大樋中中龍神岡井飯大箸谷佐大中神大水中柴岡大川大保相加本松前本箕本高本
 谷宿藤 上西川口谷田上島 方々 川崎 引津田田 本 正馬納 本 川 浦 木
 毅隆 泰三郁秀 和明 海文次 弥栄 芳 茂 忠淳 彌之祐 正 幸
 丈夫弘 功一三夫亨義郎勲 三夫郎 次次 雄宏夫巖 茂 保男司 義 祐 正 幸

服畠中坪白大吉藤平西中田大松林浜刀瀧酒小尾池池大山柳西鈴浦磯大藤中田草川河岡
 部山川田井 田本瀬坂島川 岡 崎 館 川井森本 田 本 原野木谷部 原村中生村合田
 全義寿清 裕武徹勝行 健史守信雅通清政弘辰 芳昌 重政一 多博 知和正
 孝生一六健 弘郎明雄司雄 雄欣三雄一夫美二孝彦 三弘宏成夫郎 多喜雄一実治男紀亨

羽中土古北加小天大若吉納徳西近小内朝大宮三堀堀平中田角守稲大松野関黒川大山細
 瀨村井山村藤口木 山田堂地藤藤林川 比奈 野宅川内居村村田谷 浦一色 沢合 田谷
 展 健捷 博 國 久秀康和達三晃冬 幸久幸 俊 寿孝貞明 紀公恵日久
 世弘郎徹善晃夫 忠典樹之弘也郎廣雄 雄俊夫和雄弘夫司夫也 久雄平文夫嗣 進孝

河市大山前西並中中栢柴滋栗蔵川岡池大渡寺嶋柴木大吉山藤細富鶴柘黒木大海穂大古
 田岡 本 田尾河根川 原野林田崎本谷 邊沢多田津 田 本 井江田見野田下澤老山 川
 康隆 節 郁日昌瓊治良輝 昭憲和吉 雅 豊勝 勇 駿謨博芳茂悦英義 祥 浩
 雄治 夫豊夫夫孝一三昭彦昭憲夫之人 利優優彦治 夫保治夫司令樹司男隆洋夫 司

岩大持農角竹田蔵青大吉宮松濱土戸寺竹田芝小門小稲伊大和山林西中柴岡大吉西千小
 谷 營 田守田本中 木 濟延川野 井 井森邊田山平野 野 藤 營 田崎 澤村田 濟村川葉梶
 克 晴義健進二 美 秀 澄筆利保与二 隆久孝敬博 博竹 弘達吉廣 政清 清
 敏 夫文一一郎彰憲 明誠男治明延雄 郎徹行照郎史義邦 之夫学行夫典司 彦悟茂司

西中玉玉田品大稲大山山山林玉小大山能島北大脇米山細中飯大森植射大堀平浜河植上
 岡置井口川橋波濟脇代 村林 營 田島崎野 濟阪山下河井崎田 營 口野場 濟尾井野原田
 以浩辰達良悦正信 一真嗣利忠 伸 敏 勝為義孝 修克茂 重善信正兼
 夫三司也三夫典一 泰行和廣志 忠夫博彦 守修司馬邦男潔 逸美喜 雄三裕喜司求

弁護士法人 MIA 法律事務所

事業・ご家庭のことなど気軽に下記までご相談ください。



東京オフィス 東京都中央区銀座 2-8-18-702

TEL. 03-6274-8164

高崎オフィス 群馬県高崎市東町 32-1-201

TEL. 027-329-5043

HP: <https://mialaw.jp> E-mail: aoki@mialaw.jp

TEL. 080-9340-0205



代表弁護士・税理士・社会保険労務士 青木 聡史 (大45回・平成9年卒)

CHARMANT

株式会社 シヤルマン

「シヤルマン 銀座並木通り」は、
一人ひとりに最適な眼鏡に出会える場所です。



ショップ 「シヤルマン 銀座並木通り」
東京都中央区銀座5-4-8 TEL : 03-3571-4141

本社・工場 福井県鯖江市川去町6-1 TEL : 0778-52-4141

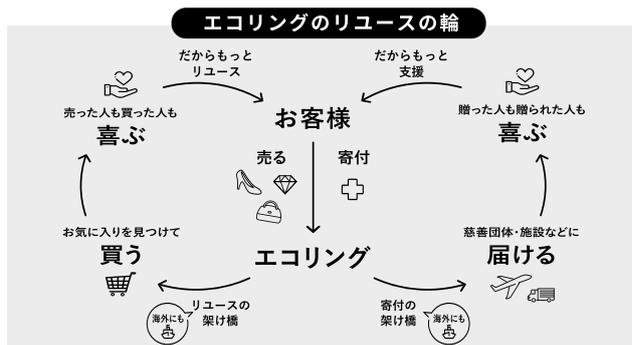
右QRコードからWEB または お電話にて来店のご予約を承っております。
“陵水会会員”であることをお伝えください。



<http://www.charmant.co.jp>

不要品のリユース体験するなら、
ブランド品から日用品まで買い取れる

感動買取の エコリングへ！



エコリング 検索

発行所
〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-15
第2タジマビル401
公認会計士 松澤進事務所内
陵水会東京支部 支部長 能島伸夫
電話03(6423)0383
印刷所
〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-3
船舶印刷株式会社
電話03(3831)4181

※編集室のメールアドレスは
yoshid.i@roadocn.ne.jp
(次号分、切日十月末日)

(携帯)
090(1738)4718
042(403)1764
TEL・FAXとも

吉田 勇夫(大15回)
〒184-0014 小金井市貫井南町5-8-14
(TEL・FAXとも)

当紙に関する問合せ先

陵水会東京支部

ホームページ
アドレス

<http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/>